

主催者代表挨拶

鈴木 寛 文部科学副大臣

本日は、お忙しい中大勢の皆様、「第8回国際教育協力日本フォーラム」(JEF VIII)にご参加いただき、心より感謝いたします。主催機関のひとつである文部科学省を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

本フォーラムは、国際社会が一致団結して取り組んでいる「ミレニアム開発目標 (MDGs)」や「万人のための教育 (EFA)」の目標の実現に向けて、開発途上国の自立的な教育発展とその支援を目的として2004年から毎年開催しているものです。

今回は、地域の人々や保護者の意見を十分反映しながら学校運営を行う「コミュニティ・スクール」の日本国内での取組を紹介しつつ、開発途上国において、学校・地域社会・行政が一体となって教育改善を行う「スクール・フォー・オール」の取組がさらに広がることを期待して、教育開発と地域社会との関係をテーマと致しました。

ポスト近代社会においては、青少年の健全育成や非行防止などの様々な問題について、国家の社会システムのみでは解決が困難となり、それぞれの地域社会の関与が必要になっています。こうしたことから、学校の運営や経営、教員の指導力の向上などに対して、保護者や地域のボランティアが学校の応援団として教員と一緒に取り組む「コミュニティ・スクール」に期待が集まっています。

私は、本日基調講演をお願いしている金子郁容先生とともに、日本におけるコミュニティ・スクール構想を提案し、様々な働きかけを行い、2004年には地方教育行政法を改正して制度化を実現しました。また、文部科学副大臣就任後は、地域の人々が議論する「熟議」や「新しい公共型学校」等の推進により、コミュニティ・スクールが全国各地で広がるように努力しています。

学校と地域が良好な関係を構築することは、良い学校・良い教育を実現する上で必要不可欠なことです。これは先進国であるか開発途上国であるかに関わらず共通する課題です。

例えば、我が国が国際協力機構 (JICA) を通じてアフリカで進めている「学校運営委員会支援プロジェクト」は、学校運営委員会がしっかりと機能することを支援することを通じて教育環境を改善し、基礎教育における教育の質を向上させるものであり、学校と地域の関係に着目した取組です。

本日の日本側の基調講演者である金子郁容先生は、我が国におけるコミュニティ・スクール推進の先達であり、その幅広いご知見から、開発途上国の教育力向上のため、学校に地域社会を巻き込んでいくことに取り組んでおられる方々にとって参考となる貴重なご意見が伺えるものと期待しております。

もう一人の基調講演者であるアブゥ・ジャラ マリ教育識字国語省の室長は、先ほど例示したアフリカの学校運営委員会支援プロジェクトの実施を担当しておられる方です。マリにおける取組を、ご自身の体験も踏まえてご紹介いただけるものと思います。

さらに、国内外から4名のパネリストの方々にお集まりいただいております。国により学校運営への地域社会の参画の実態や必要性、社会背景などは異なっているものと思いますが、午後のセッションではそれぞれの立場から活発にご議論いただき、本日お集まりの皆様の方々の今後の活動の参考となるような、大きな成果を上げられることを期待しております。

最後に、本フォーラムの実施にあたりご尽力いただいた関係者の皆様に感謝の意を表しますとともに、この会が、開発途上国の自立的な教育発展とそれを支援する協力に関し有意義なものとなりますことを祈念し、私からの挨拶とさせていただきます。

主催者代表挨拶

伴野 豊 外務副大臣

本日は、第8回国際教育協力日本フォーラムに国内外、各国から教育というキーワードで国際貢献をしていただいております皆様方にお集まりいただきましたことに、日本国政府外務省を代表いたしまして、心から御礼と感謝を申し上げます。

さて、わが国におきまして、2月・3月というのは、いわゆる受験シーズンでございまして、子を持つ親、あるいは子どもたちも受験という機会にとらわれて、自分の将来、あるいは教育の質と量という課題を考えさせられる時になります。

わが国においては、このような機会に教育の質と量について話をすることがありますが、国際的あるいは地球規模で見れば、これはありがたい頭痛の種です。教育の質と量について測れない入り口のところで困難に直面している世界の子どもたちがいる現実があり、昨今、中東エジプトで起こっているさまざまな状況においても子どもたちはどうしているのか、考えさせられる日々でございます。

菅総理の目指している社会、最小不幸社会あるいは不条理を取り除いた社会を実現するための最大の武器は、教育ではないかと私は思っております。世界各国が直面する、テロ、貧困、飢餓、地球規模の課題等のさまざまなことを解決する上での人類最大の武器は教育であると思っております。そういった意味で、わが国をあげて、教育の入り口で困難にぶつかっていらっしゃる各国の子どもたちを全力で支援させていただきますことを、改めて誓い申しあげまして、本フォーラムの大成功を祈念させていただきたいと思っております。

ありがとうございました。